

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月21日現在

機関番号：13401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010 ～ 2012

課題番号：22592366

研究課題名（和文） 日米の比較分析に基づく看護学生の人的コミュニケーション能力育成プログラムの構築

研究課題名（英文） The goal of this grant is to design a communication education program that is effective for nurturing “discriminating mental capacities” in nursing students.

研究代表者 Katz, Edmont C. (キャッツ エドモント C)

福井大学・医学部・講師

研究者番号：70401958

研究成果の概要（和文）： 4つの研究方法を総合した結果、看護コミュニケーションプログラムをより効果的にする可能性を持つ次のような要素が見つかった。

1. 看護学校へ入学を希望する学生を審査するための正確かつ根拠に基づいた選考方法の必要性。特に、学生の持つ共感性と人間を大切にする性質に注目すべきである。これは、学生を審査するための特別なトレーニングを受けた専門家によって行われるべきである。
2. 次のような特徴で表わされる看護学習のための環境作り
  - a. 日常のコミュニケーションにおける教員が手本となった共感的コミュニケーション
  - b. 学生自身が選んだ仲間とは違う人々との早い段階における交流機会
  - c. 知的発達と共に個々の学生の感情面を発達させるようにコーディネートされたサポート。認知発達、社会性の発達及びカウンセリングの専門家との密接な協力と共に、この分野での教員の訓練が重要である。

研究成果の概要（英文）： Synthesis of the four research methods resulted in the following factors as having potential for enhancing effective nursing communication programs.

1. The need for precise, evidence-based candidate selection procedures. Particular attention should be given to empathy and human-centeredness. These should be administered by professionals specifically trained in candidate screening.
2. Creation of nursing learning environments characterized by the following characteristics:
  - a. Empathy-based communication modeled by faculty members in their own daily communications.
  - b. Early opportunities for students to interact with individuals differing from their own chosen student peer groups.
  - c. Coordinated support of each student’s emotional, as well as intellectual development. Critical to this would be faculty training in this area along with close collaboration with specialists in cognitive and social development and counseling.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野： 看護コミュニケーション教育

科研費の分科・細目： 基礎看護学・看護技術

キーワード： 看護教育、コミュニケーション、看護学生、分別能力、能力育成

## 1. 研究開始当初の背景

看護におけるコミュニケーションは、対象者と看護師の間で交換されるメッセージにより成り立っており、そのメッセージは **Humanizing Message** (人間的メッセージ) と、**Dehumanizing Message** (機械的メッセージ) に分類される。看護に大切な人間的コミュニケーションを形成するためには、人間的メッセージが必要であるが、そのためにはまず、人間的メッセージを理解し認識する能力が必要である。

本研究では、日米の看護における人間的／機械的メッセージの特徴とその分別能力発達過程を比較することで、文化的小および教育的背景の相違を明確にし、日本における看護学生の人間的コミュニケーション能力獲得過程の特性を明確化する。加えて看護学生がどの程度人間的メッセージを理解し、コミュニケーション場面の中から抽出できるかについて明らかにしたうえで、看護学生のための人間的コミュニケーション能力育成プログラムの構築を目指す。

## 2. 研究の目的

個々の看護師が人間的コミュニケーションを築くためにはまず、人間的メッセージと機械的メッセージを理解し、分別出来なければならない。看護基礎教育においては、看護学生が、コミュニケーションの中の2種類のメッセージを分別する能力をどの程度有しているかを把握し、分別能力の発達過程とその影響因子を明らかにすることが重要である。

本研究では、日本における看護学生のための人間的コミュニケーション能力育成プログラムを構築することが第一の目的である。そのためにまず看護学生の人間的／機械的メッセージの特徴とその分別能力発達過程を日米で比較し、能力獲得過程の特徴を明確にする。加えて、看護学生の人間的／機械的メッセージ分別能力を含む人間的コミュニケーション能力を測定し、その影響因子を明確化する。

## 3. 研究の方法

学生がコミュニケーションを進めて行く過程をよく理解する為には、データ収集のための4つのアプローチが必要とされる。

### (1) 量的調査：

調査票ベースのデータ収集方法。この方法では、研究対象者は会話の中でどれだけ人間が重視されているかを判断することを要求され、彼らの判断に影響を与えた設定場面中の要素を選ぶよう求められた。この方法では下記の物が用いられた。

- ① 設定場面の写真 (教室、喫茶店など)
- ② 2名の話し手間の会話の描写
- ③ 写真ではわからない他の場面要素の説明 (光、温度、インテリアなど)
- ④ 研究対象者に選択してもらう場面要素のリスト
- ⑤ 研究対象者個人についての質問

### (2) 自然なコミュニケーションの観察：

日常の設定の中での学生の観察。学生のコミュニケーションパターンの中のある特定分野に関して詳細な観察ノートが取られた。設定場面は量的調査の中で使われた場面と類似した場所や時間帯に限定された。ノートは談話形式で書かれ、次のような項目について分析された。

- ① 研究対象者の行動
  - a. 会話： 話し方、話題、コミュニケーションの取り方
  - b. 物理的な要素： 人の社会的距離、頭や目の動き、個人の持ち物 (バッグ、本、電子機器など) 又は普段の場面の中にあるもの (テーブルウェア、椅子など)
- ② 何に着目してノートを取るかを研究者自身が決めた設定場面中の要素

### (3) ヘルスケアプロバイダーへのインタビュー：

ヘルスケアプロバイダー、主にアメリカ、カナダ、イギリスの看護教育者や臨床医に学生や新看護師のコミュニケーションパターンについてインタビューを実施した。これらのインタビューは、ヘルスケアにおける暴力に関する学会において行われた。学会はバンクーバー／カナダ、アムステルダム／オランダ、プラハ／チェコ共和国で開催された。日本では、看護学校の教師、

病院で新看護師の教育をする人にもインタビューを行った。

(4) 広範囲にわたる文献レビュー：

下記に挙げた研究と教育の領域における文献の多読

- ① サービス職：  
ヘルスケア、警察、軍隊、ホテル&レストラン、カウンセリング、刑務所
- ② 言語学：
  - a. “語用論”（礼儀正しさ&コミュニケーション戦略）
  - b. 認知言語学
  - c. 第二言語習得
  - d. コミュニケーション障害（言語病理学）
- ③ 子供の行動：
  - a. 知的障害を持つ子供達のケア
  - b. 問題行動のある子供達
  - c. 重度の精神障害を持つ子供達
- ④ 脳科学：  
コミュニケーションにおける脳の機能、共感経験、欲求不満、怒り

4. 研究成果

量的調査では、我々が望んだデータを得ることが出来なかった。

これは、この方法において2つの制約があった為だと考えられる。

(1) この研究の調査票ベースのデータ収集方法では、航空宇宙状況認識調査において使われている高度なシミュレーション技術が欠けていた。従って、その結果を実際の状況と関係付けることが難しかった。以下の要因が大きな制約となった。

- ① 調査場面を出来る限り現実的にすること。状況認識調査では、人間が様々な状況において自分の行動を決定する際に、自分が感じ取った情報をどのように利用しているかに焦点を置いている。
- ② 研究対象者にとって、文書形式の調査票に関して2つの重大な問題点があった。
  - a. 詳細に書かれたリストの中から重要な場面要素を選ばなければならないこと。  
我々の他の調査において、ある設定場面で我々が決断を下す時、大抵無意識の内に判断を下しているということがわかった。それは、我々がその場面中にある多くの要素に気が付かない、又それらからどのような影響を受けているかにも気が付いていないということである

b. 絵や具体的な例がないまま、その場面を思い描かなくてはならないこと。

（自信を持って言う事は難しいが、研究対象者の年齢が一因だったかもしれない。他の人間研究の分野において、より多くの人生経験を持つことは、目に見えない場面を視覚化する能力と相関関係にあることが明らかにされている）

- ③ 常に変化する要素が、言葉での描写や静止した写真の中で適切に表現されていなかった。
  - a. 話し手のわずかな感情の変化
  - b. 話し手の非言語メッセージ（意識的又は無意識）
  - c. 話し手の周辺で同時に起こる変化（人々、音、など）

(2) 調査票形式では自然な会話の中に存在する社会的な内容が欠けていた。

我々の他の調査において、話し手のコミュニケーション中の判断は、その場にいる、話し手に関わりを持っている、又は話し手の人生に重要な影響を与える他の人間によっておそらく強い影響を受けているだろうということが明らかになった。コミュニケーション観察、インタビュー、及び文献レビューは、社会的に優先される事由のために設定場面中の要素を完全に無視する話し手の例をたくさん提供している。話し手は社会的優先事項に気を使うが故に、生命を脅かす要素でさえ無視してしまう

観察を繰り返す内に次のようなことが強く示唆された。

- ① 多くの場面要素は無意識の内に感じ取られていると考えられる。これは歩行中や食事中に通常無意識に取られている行動と似ているかもしれない。
- ② 影響力のある場面要素は、人が会話の選択をする時に無意識に考慮されていると思われる。
- ③ この認識の欠如が話し手の適切なコミュニケーションの選択をする能力を制限しているのかもしれない。
  - a. 場面要素は話し手や観察者に関する情報を含む
  - b. 話し手によって次のような場面要素に対する感じ方が違う
    - ・ 設定場面：時間、温度、色、家具、その場面の社会的意味
    - ・ 研究対象者：ニーズ、経験、文化、制約、地位、目的

- ④ 結論： あるイベントに関する人間の記憶は次のように特徴づけられていると思われる。
- 無意識の内に感じ取られた場面要素に関しての記憶は概して不正確である。
  - 自分が個人的に重要だと思った要素については正確に記憶している。

この最後の2つの結論は大変有用であると考えられる。全ての人間的コミュニケーションは人間によって解釈される。つまり、人間は互いにやり取りした情報に、社会で生き残るための意味付けをする。そしてこの意味は、個人の経験、その時の場面設定、そしてその後予測される結果などを考慮した上で決定される。事実、設定場面、言語の発音やそれを表すシンボルさえ、本来意味は持っていない。人間が、グループの一員としてみんなが同意する意味を付けるのである。

インタビューでは、若い看護学生や新看護師の言語パターンにおいて次のような傾向があることが示された。

- 自分の取る行動を決定することにおいて仲間達に強く依存している
- 公式な場においてさえ、言語パターンが砕けた、親近感のあるものになる
- 目上の人からの要求を消化する為に、それを正当化する必要性が増えている
- 不満、孤独や新しい状況に出くわすことが許容出来なくなっている

文献レビューでは、コミュニケーションにおいて意志決定をする時に、次のような重要な要因があることが示唆された。

- 個人の社会的関係とグループが第一優先事項
- 共感のタイプ：内在しているもの（初期の人格形成） 対 教育されたもの（個人の人格形成後に短期間で教えられたもの）
- 人がコミュニケーションの場面を解釈したりナビゲートしたりする能力への文化の影響
- 個人の知能対感情の発達段階
- 個人が新しい状況に晒される度合い

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計1件)

- Edmont C. Katz, Aggression, the weapon: Situation the trigger: An Immersion Workshop on verbal strategy decision making. Third International Conference on Violence in the Health Sector, Vancouver, Canada. October 24-26, 2012.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

Katz, Edmont C (キャッツ エドモント)

福井大学・医学部・講師

研究者番号：70401958

### (2) 研究分担者

長谷川 智子 Hasegawa Tomoko

福井大学・医学部・教授 (H22年度のみ)

研究者番号：60303369

### (3) 研究分担者

上原 佳子 Uehara Yoshiko

福井大学・医学部・講師 (H22年度のみ)

研究者番号：50297404

### (4) 研究分担者

佐々木 百恵 Sasaki Momoe

福井大学・医学部・助教 (H22年度のみ)

研究者番号：00422668

### (5) 研究分担者

吉田 華奈恵 Yoshida Kanae

福井大学・医学部・助教 (H22年度のみ)

研究者番号：60509298

### (6) 研究分担者

礪波 利圭 Tonami Rika

福井大学・医学部・助教 (H22年度のみ)

研究者番号：10554545